

平成 19 年度 事業報告書  
LOOB JAPAN



## 1. 概況経緯

2001 年の団体発足以来、北海道、仙台、東京、大阪、福岡に各ブランチ(活動拠点)を置き、日本とフィリピンの文化的・教育的な人的交流、および現地の低所得者層を対象とした地域開発、教育・医療支援などの活動を推進してきました。

平成 19 年度は、会員の種類を従来から 2 つ増やし、正会員とスモークーマウンテン事業会員を追加しました。これにより、日本国内ブランチの組織化が進み、国内のボランティア活動が活性化しました。また現地では、LOOB フィリピンが 6 月からイロイロ市ごみ投棄場の住民支援事業を開始し、困窮者への生計支援のため、裁縫プロジェクトを手掛けるほか、子供達の教育・衛生改善事業も開始しました。

収益の柱となっている自主事業では、計 5 回のワークキャンプ、スタディツアーを開催。引き続き、支援先のコミュニティとの関係構築を進めながら、日本／フィリピンの青年ボランティアの異文化交流・地域支援活動を実施することができました。

## 2. 事業に関する報告

### (1) 開発途上国における地域協力・地域交流プログラムの実施

#### ◆ワークキャンプとスタディツアー：(2～3月、8～9月に計5回)

第18回のギマラス島ワークキャンプでは、昨年引き続き、公立サルバシオン高校の衛生環境改善のため、トイレの水源となる井戸を掘削。また雨水を貯めるため、屋根の縁からタンクに薄いが貯蓄されるような上水道敷設工事を実施。これにより、600人の生徒が安全な水を確保できるに至った。

第19回のパナイ島ワークキャンプでは、ナムコン村のスクワッター(不法居住者)移住地区において、水源となる井戸からコンクリート製貯水タンクに配水管を引き、さらにコミュニティまでの配水管を敷設した。これにより約100人の村人が安全な水を確保できるに至った。

第20回ギマラス島ワークキャンプでは、昨年の重油タンカー沈没事故で打撃を受けた海洋地域で、マングローブ5,000本を植林した。

第21回スタディツアーでは、ごみ投棄場、児童養護施設、ナムコン村の3地域において交流活動を実施したほか、青年海外協力隊員の活動地を訪問した。

第22回パナイ島ワークキャンプでは、小学校の教室不足を補うため、教室建設を実施した。(次期3月のワークキャンプで完成予定)

◆養豚事業：ギマラス島、ネグロス島の2地域で行っていた住民の生計向上プログラムとして養豚事業は、運営が軌道に乗ったため住民の自主事業として全て移管した。

◆スモーキーマウンテン事業支援：イロイロ市ごみ投棄場が衛生埋立場に移行されるのに伴う、住民の新生計手段の確立を支援。裁縫事業のサポートを開始した。

## (2) 開発途上国の子ども達への教育・医療支援

◆こども学資援助：貧困世帯の子供達35名に対し、学資金を支給。

◆こども医療援助：貧困世帯の障害・病気・けがなどで治療が必要な子供を個別支援。白血病の男児(11歳)の病状が改善したことから、支援を終了した。

◆子供英語アクティビティ：貧困世帯が多い地域に日本人とフィリピン人のボランティアが週末出張し、子供達の英語力を引き上げるための様々なアクティビティを実施した。

## (3) 開発途上国の困難な状況にある地域・世帯への物資支援

◆物資・衣類寄贈：ギマラス島、パナイ島の貧困世帯・地区を訪問し、日本から支援者が寄贈した物資や衣類を寄贈した。今年も約100世帯に対して配布した。

## (4) 国際理解のための日本文化・海外文化の普及

◆英語研修&週末ボランティア：途上国の問題を勉強しながら英語をツールとしてフィリピンの貧困地域をボランティアで訪問する活動を実施。

◆日本語教師プログラム：教育機関で、実践的な日本語教師の育成プログラムを実施した。

## (5) 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施

◆チャリティフリマ：スモーキーマウンテン募金調達の手段として、北海道、仙台、東京、大阪、福岡で計8回のチャリティフリマを実施した。

◆説明会・広報活動：1~4の国際交流・国際協力プログラムの支援者を幅広く獲得すべく、東京と大阪で説明会を実施した。

## (6) 機関紙の発行

◆ニュースレター発行：6月発行、100部配布。